

Title	京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 131
Author(s)	
Citation	京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 (1963), 131: 25-36
Issue Date	1963-08-10
URL	http://hdl.handle.net/2433/186906
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

京都大学瀬戸臨海実験所振興会

水族館月報

NO. 131

1963. 7月(8月10日)

録 事

7月14日 山路委員はアメリカ及びイタリーの留学を終え、1年3ヶ月ぶりに無事帰朝、10日より出勤。14日午後6時より大洞荘で観望会を開催。

7月18日 大林組和可山出張所橋本主任・三宅課長来館、第2期工事について現地委員と打合わせを行なう。

7月19日 15時より特研会議室で大嶋・岩城両監事より監査を受けた。浅野監事は交通事故のため欠席。

7月20日 9時より特研会議室で、昭和38年度委員会総会を開催。詳細議事録兼記事は別記。

業 務 概 況

◎ 7月の入場者数

○ 水族館窓口発売

区 分	大 人	中 人	小 人	小 計	累 計
個 人	5713	186	952	6851	35048
団 体	7993	2132	5324	15449	75772
合 計	13706	2318	6276	22300	110820

○ 交通業者委託発売

区 分	大 人	中 人	小 人	小 計	累 計
明 光 バス	22041	0	932	22973	156228
白浜急行バス	4237	0	207	4444	16062
合 計	26278	0	1139	27417	172290

○ 旅行斡旋業者委託発売

区 分	大 人	中 人	小 人	小 計	累 計
日本交通公社	1223	0	0	1223	8002
近畿日本ツリスト	2010	27	102	2139	5515
日本旅行会	0	0	0	0	1539
南海交通社	120	281	0	401	1241
日本通運KK	0	0	0	0	408
合 計	3353	308	102	3763	16705

合 計	43537	2626	7517	53480	299815
累 計	281170	3951	14694		299815
無 料	旅行斡旋業者他			516	1254

◎ 7月の事業収支

(今年度累計)

観光券売上金	1,403,988	9,146,037
窓 口 発 売	461,215	2,815,582
明光バス観光券	799,403	5,551,420※
白浜急行バス観光券	48,240	347,420
日本交通公社クーポン	30,959	208,030
近畿日本ツリストクーポン	51,616	140,997
日本旅行会クーポン	10,962	50,358
南海交通社クーポン	1,593	21,324
日本通運KKクーポン	—	10,906
絵はがき売上金	64,740	171,290
予 金 割 子	—	720
手 数 料	26,122	260,320
パンフレット払下	—	—
研究業績払下	—	—
魚 類 払 下	—	13,200
雑 収 入	1286	3523
施設設備修繕立金より繰入	—	—

合 計 1,496,136 9,595,090

※ 明光バス観光券未収分 @30 3781枚 @27 1910枚
@10 472枚 @ 9 100枚

◎ 7月の支出

本部経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	30,321	1,630,36	
旅 費	27,730	27,730	
会 費 費	12,930	24,930	
草 稿 費	83,500	95,700	
福祉厚生費	—	353,90	
社会保険費	1,582	1,582	
積 立 金	235,701	1,411,249	
合 計	391,764	1,759,617	

水族館経費

内 容	金 額	累 計	備 考
大 件 費	234,438	1,328,007	
旅 費	23,780	18,620	
事 業 費	188,231	792,560	
官 給 費	8,541	38,794	
公 課 及 保 險 料	19,221	81,146	
諸 経 費	65,447	496,974	
合 計	510,517	2,756,101	

実験所経費

内 容	金 額	累 計	備 考
旅 費	—	7,820	
研 究 費	—	40,600	
助 成 金	20,000	50,000	
刊 行 費	9,500	9,500	
役 務 費	—	—	
合 計	29,500	107,920	

支出合計

(今年度累計)

本部経費	391,764	1,759,617
水族館経費	510,517	2,756,101
実験所経費	29,500	107,920
経 理 費	—	—
合 計	931,781	4,623,638

◎ 7月末現在高

前月よりの繰越	4,407,097
今月の収入合計	1,496,136
今月の支出合計	931,781
現 在 高	4,971,452

◎ 前年度との比較

	1963	1962	増 減
入 場 者 数	53,898	40,671	+ 13,227

昭和38年度委員会総会記録

日 時 昭和38年7月20日 9時～13時

場 所 京都大学瀬戸臨海実験所第1会議室

出席者 宮地会長、酒委員、十河委員、^(御)内海委員、時岡委員、山路委員、布施委員、
宮谷委員、大嶋監事、以上10名

オブザーバーとして荒賀研究員

書記 派見事務主任

記

1. 議長選出

1) 規定により宮地会長を議長に選出。

2. 議事の決定

1) 議題案の通りと決定。

3. 新委員の紹介

1) 峯尾委員の後任として、白浜観光協会より推薦の十河委員を紹介。

4. 1962年度事業及び経理報告 (内海委員)

1) 15HP揚水ポンプ増設・貯水タンクよりの給水管を4インチパイプ2本に増設したことによって、サ3水槽室に対して循環式だけでなく、開放式給水の併用が可能となった。このことにより、動物の飼育成績を向上している。

2) 海水温度調節装置を設けたことにより、タカアシガニの年間飼育が可能となった。

3) サ3水槽室の増築・機械設備の整備によって規模・内容共に大水族館となった。

4) 入場者は予算作成の際の予想に比して、17万人余も上廻ったため、諸施設改善積立金は2,660,000円の予算のところ770,270円を積立てることが出来た。

以上報告を承認。

5. 監査報告 大嶋監事

1) 歳入予算の補助券売上金は雑収入に計上しているが、観光券売上金に計上すべき

である。

- 2) 私用の電話料も雑収入ではなく、電話料に充当すべきである。
- 3) 振興会の宿舍（衆学荘）の収入は振興会へ入れるべきである。
- 4) 実験所経費の備置は寄贈の手続きをとること。
- 5) 刊行費は刊行の都度寄贈の手続きをとること。
- 6) 臨時費才出の予備費の内容をはっきり表示すること。
- 7) 財産目録は財団法人の書式によること。
- 8) 以上の外の金銭の収支は明確である。

1962年度決算報告については、監査報告の6)を行なうことを条件に、承認と決定する。

6. 1963年度予算案について 深見事務主任

- 1) 前年度の委員総会で予算及決算科目の変更が討議され、奥体系は常任委員と大学側監事との間で決定、38年4月より実施することとなっていたので予算書のような科目とした。
- 2) 2〜3年後には運営となる可能性が多い。その場合のことを考えて水族館経費に重畳を置いてほしい。 (宮谷委員)
- 3) 白浜町は大都市以上に物価が高い。給与の予算は低くすぎはしないか、少なくとも就職希望者があるような給与にすること。常務委員会費ももっと増額してはどうか。退職金についても国家公務員・地方公務員共に大きく改善されている。このようなことも研究する必要がある。 (岩城監事)
- 4) 待遇については昨年国家公務員と同様の給与改善を10月に実施し、さらに委員会総会の決定に従って国家公務員給与に一律1900円をプラスした額を出している。これは現在の振興会職員（厚生年金組合）による退職手当金と国家公務員の共済組合による退職一時金との差額を補う額として計上された金額である。なお水族館職員の地位と待遇の向上をはかること。定員等についても研究してオーバーワークにならないか、退職給付の採用等についても調査して行きたい。 (常任委員)
- 5) 南方会館の建設に協力方申出。 (浦委員)
- その面においては同会館の内部、敷地、整理の方法、発起団体等について調査研究をすることとなる。
- 6) 実験所経費の研究助成金黒田徳米氏分を前年度12万円より本年度は15万円に増額。可決。

7. オ2期工事について 時岡委員

- 1) i 直営になった場合は大きな設備の改善とくに水族館の新築はむつかしい。
 - ii 当館には大水槽がない。
 - iii 現在の設備では大きな団体が入場した時の混雑が甚しい。
- 以上の点からなるべく早くオ2期工事に着手したい。

2) 建築費の支拂いについて

- i 入場料の値上げにより積立金の増加をはかること。
 - ii 工事を分割して施工することにより借入金及び延べ拂いによらない。
- これに対して「是非立派な設備をつくれ」、「白浜の旅館のデラックス化に施えられるようなものをつくってほしい」との意見があったが、建築費の支拂いに調達方法になお検討の余地あり、建築許可を得ることについても研究があるので、建築決定は保留とし宮地会長・宮谷事務長から当局に働きかけ、「資金の支拂いに困途が付き、当局の許可が得られた場合は」という条件の下に了解事項として決定した。

8. 入場料の値上げについて 常任委員

- 1) i 当館の設備特に内容の充実している点では全国的に最も高い部に入っている。
- ii 当館の入場料は水族館としては最も低い。
- iii 当館に対する観客の評判は非常によい。
- iiii 設備を改善していくためには是非値上げが必要である。

以上に対し最近の物価事情・人件費の増加等から入場料の値上げの必要性がみとめられた。

- 2) i 値上げの中については入場料を40円とする案・50円とする案、今回は40円として1年後に50円とする案等が出されたが、当館は交通業者・旅行幹旋業者との連帯契約が多いので、値上げの回数をへらし事務の煩雑をさける意味から大人の入場料を50円と決定した。
- ii 小人の入場料については、小学校・中学校を含めて義務教育児童生徒の入場料を10円とする案も出たが、大人50円との開きがありすぎることから25円の両案が出た。そのあと連帯している所の入場料が全部大人の半額である点から、小人(小中学校児童生徒)の入場料を大人の半額25円と決定した。

iii 団体割引については、最高の割引率を20%とし、細則は常任委員に一任。

iiii 特別割引として小・中学校の義務教育の児童生徒が教育の目的で入場する時は1人10円とする。なおこの場合は必ずしも団体の人数にこだわらないこととする。

9. 委員の退任慰労金の内規について

振興会の委員が退任する時は、その退任慰労金は1期（2年）に対して1万円とする。

10. 白浜急行バスの手数料について

白浜急行バスの当館入場券取扱手数料については、定期観光路線を認可されたバス会社として、明光バスと同率の7%とする。

以上の討議を通じて予算案を可決。なお入場料金値上げ等による予算額の変更は追加更正予算に組み込む。

11. 振興会規約改正について

1) 実行会議を設けたのは、研究者が研究に専念出来るようにするため、水族館の経営を水族館の職員にまかせる目的であった。実行会議を設けて1年実施した結果は、水族館の経営がスムーズにいられているので検討し、実行会議を規約化する事が今回改正の主な目的である。なおこれを機会に規約の不備な点をあわせて改正する。

2) 上の提案の原則を承認し、改正規約の条文については、十分な検討を必要とするため、継続審議とする。

i 白浜町・白浜町観光協会・瀬戸部より推薦の委員については、水族館と重大な利害関係にある人は推薦しないことを決定。

ii 現任監事の任期終了後は、京大職員以外の監事は、京大関係以外の3委員によって推薦したものを会長が委嘱することを確認した。

水族館記事

- ◎ 1日 大阪、エンゼル熱帯魚店より、エンゼルフイツシュ、グーラムイ類を購入
標本室出口の淡水魚槽を2カ槽増設し、(これで、熱帯淡水魚槽はTF1~
TF8の8カ槽となる。)これに展示した。
- ◎ 5日 大阪市大教養部学生が、江津良の成で採集したツバメウオ(50mm) タツ
ハオトシゴ(70mm)各1個体を受贈 T-3に展示。
- ◎ 8日 T-5のヒメツバメウオに寄生原虫ウウデイニウムが発生したが、 $\frac{1}{2}$ 000の
ろ(0.5PPM)の脱酸銅浴で、完全に駆除できた。感染至路は新しく補充
した海水であると思われる。
- ◎ 13日 博物館側の池に、ヌマエビが無数に繁殖しているのを認め、以後、クダ
タツ、キリンミノなど活餌を必要とする、熱帯性小型魚類の飼に重宝してい
る。
- ◎ 16日 先月入槽のハナイカは、NO23-7のバツト内に産卵していたが、これが
孵化しはじめ、22日までに、14個体がかえった(産卵数は211個)
幼イカは全長11~14mm、興奮すると親と同じように鮮やかな色彩を示す。
卓上水槽裏の小バツトに収容し、開放式で飼育を始めた。
- ◎ 18日 エンゼル熱帯魚店より、ヌノサラシ、ハマクマノミ、ミスズリユウキ
ユカススメなどを購入T-1~4の各水槽は賑かさを増した。
- ◎ 19日 日本テレビへ、「私のクイズ」出演用として、タカアサガニ10個体を分譲
した。東京までの輸送は、1.5トンの木製水槽を積んだトラックにより、ド
ライアイスで冷却を続け、約30時間を受けた。このタカアサガニは、辛うじ
て生きて着いて、クイズ番組に無事、酒井桓博士の説明つきで出演したが、撮
影直後に死亡したとのことであった。
- ◎ 22日 NO23卓上水槽9槽は給水状態が悪く、水温の上昇とともに死亡個体が
増えだしたので、配管を改良し、充分に給水できるようにした。
- ◎ 23日 瀬戸より、ムロアジ(30cm前後)40個体を購入、NO24水槽へ収
容した。本種は輸送中の「サバ」に極めて弱く、月末までに、28個体が死
亡したが、白点病には、犯されず、生き残ったものは、長期飼育できる見込
みである。

- ◎ 28日 ハナイカの子供は、その後、アルテミヤ、マヌエビに飼付きし、成長を期待していたが、水温が高くなりすぎたせいか(29、0°C)本日までに全滅した。

◎ 7月の採集作業

日時	採集場所	方法	人数	主な目的
5日午前	江津良海岸	磯採集	1	ヒトデ類、ウミ類
8日午後	四双島	磯釣、潜水	3	ネンブツタイ類、ペラ類
18日	塔島北側	磯採集	1	シマスズメダイ
19日	塔島東側	磯採集、潜水	3	オオトゲトサカ、小型底魚
21日午前	南沢防波堤附近	磯採集	2	クモヒトデ類
25日午後	塔島東側沖暗礁	潜水	3	サンゴイソギンチャク
28日	灯台下の磯	タイドプール採集	1	幼魚類
29日	塔島東側	潜水	3	熱帯性小型魚類

◎ 主な採集水族名 (☆印は1962年4月1日以降はじめての採集)

無脊椎動物 オオトゲトサカ ☆トゲナシヤギ サンゴイソギンチャク
 トラフシヤコ ノコギリガニ ホシマンジユウガニ ☆タマオ
 ウギガニ スナダコ マガキガイ オオウミシダ ウデナガク
 モヒトデ トウメクモヒトデ コシダカウニ 〇

魚類 タツノオトシゴ オジサン ☆コスジイシモチ ギンユゴイ ☆ツ
 バメコノシロ ☆イトヒキクロスジギンポ シマスズメダイ イソス
 ズメダイ ハクセンズメダイ ☆ツユベラ ツバメウオ チョウハ
 ン ☆オニハタタテダイ ツノダシ ムラサメモンガラ シマキンチ
 ヤクフダ ☆ウバウオ

◎ 主な購入水族名

魚類 エンゼルフィッシュ ☆クラウン・ローチ ☆オスフロネームスグーラ
 ミイ ☆シルバークラウン (以上淡水) オキエソ プテンアナゴ ハ
 モ トラウツボ クダタツ ムロアジ ルリハタ スノサラシ タナバ
 タウオ ☆スギ キントキダイ コロダイ オキゴンベイ ☆ハコフマ
 ナミ カクレマンボ ミスズリユウキユウスズメ ☆*Tetradactylus*
albiseellus ブダイ ミノカサゴ ☆ハナオコゼ

ウミガメ類： アオウミガメ アカウミガメ

○7月31日現在、飼育中の動物は、総計307種2518個体以上で、その内訳は次の通り、このうち観覧水槽には収容展示中の動物は、303種2410個体以上、

カイメン類	1種	タモ類	5種	タコ類	1種
ヒドロ虫類	1〃	カブトガニ類	1〃	ウミシダ類	2〃
ウミトサカ類	1〃	フシツボ、カメノテ類	4〃	ヒトデ類	5〃
ヤギ類	6〃	エビ類	10〃	クモヒトデ類	3〃
ウミエラ類	1〃	ヤドカリ類	5〃	ウニ類	9〃
イソギンチャク類	7〃	カニ類	22〃	ナマコ類	5〃
イシサンゴ類	4〃	アメフラシ類	2〃	ホヤ類	2〃
ツノサンゴ類	1〃	ニホ貝類	9〃	軟骨魚類	6〃
ハナギンチャク類	1〃	巻貝類	20〃	硬骨魚類	168〃
ホウキムシ類	1〃			爬虫類	4〃

資料

○7月の気象 (09時観測)

オ1水槽室 (水温、比重はN0.24水槽)

	上旬	中旬	下旬
晴天日数 22	5	9	8
室温(°C)	<u>25.0 ~ 27.0</u> 26.5	<u>26.2 ~ 29.0</u> 27.4	<u>27.2 ~ 29.0</u> 28.3
水温(°C)	<u>25.04 ~ 26.40</u> 25.85	<u>25.80 ~ 27.40</u> 26.55	<u>26.42 ~ 28.40</u> 27.28
比重(°/5)	<u>24.50 ~ 24.94</u> 24.76	<u>24.11 ~ 24.76</u> 24.53	<u>24.18 ~ 25.04</u> 24.81

新館 (水温)

11水槽(°C)	<u>25.2 ~ 26.3</u> 25.7	<u>25.8 ~ 27.2</u> 26.4	<u>25.2 ~ 28.2</u> 27.2
18水槽(°C)	<u>26.0 ~ 27.0</u> 26.4	<u>26.2 ~ 28.0</u> 27.1	<u>26.8 ~ 29.4</u> 28.3

取入口

水温 (°C)	25.40~26.86 26.36	25.86~27.68 26.87	27.22~28.88 28.18
比重 (25°C)	23.82~24.97 24.68	24.50~24.90 24.72	23.86~25.07 24.78

博物館記事

○19日 ムラサキウエと共生するゴカワヒシガニ *Echinocetus pentagonus* (Mac Gilchrist)

1個体を塔島のタイドプールで、ガンガゼと共生するエビの1種2個体を塔島東北端低潮線下5mでそれぞれ採集し、博物館の標本に加えた。

Stegopontonia commensalis →

昭和38年8月10日(NO.131)

編集者
発行者

宮地 伝三郎

発行所

瀬戸臨海実験所振興会
和可山県 白浜町
瀬戸臨海実験所内
(Tel. 白浜温泉515)